

第15年度 通常総会 議案書

第1号議案 14年度活動報告と活動計算書（収支決算）案報告および会計監査報告

- 1、第14年度この1年の報告とこれから
 - A、子ども劇場例会部
 - B、企画開発部
- 2、第14年度活動計算書（収支決算）案報告
活動計算書（収支決算）案
貸借対照表
- 3、監査報告書と指摘事項

第2号議案 第15年度活動計画案と第15年度活動予算書案（理事会議決・報告事項）

- 4、第15年度活動計画案
- 5、第15年度活動予算書（収支予算書）案

第3号議案 定款の変更案

- 6、事務所の移転と定款変更

第4号議案 役員選任（紹介）

- 7、第15年度の役員紹介

補足資料

会員名簿

各部の補足資料

定款

第1号議案 14年度活動報告と活動計算書（収支決算）案報告および会計監査報告

1、第14年度この1年の活動報告とこれから 全体の活動報告とこれから

この1年は、台風、豪雨、地震、噴火などによる自然災害が続き、国内国外も含めて甚大な被害がありました。また、国内の子どもの状況でも、幼児虐待による死亡などさまざまな事件がおこり、子どもの養育環境、教育環境をはじめとして課題が山積しています。貧困による経済格差、食事のとれない子ども、進学希望がとざされた子どもなど、震災被害の子どもたちも含めて、支援を求めている子どもたちが多数存在する現在です。さらに、疫病の流行、大型客船沈没、航空機墜落事故、テロ事件や国際紛争なども大きな問題として顕在化しました。身近な日中韓の関係もなかなか進展せず、文化交流でもさまざまな障害が起こっています。国内政治の混乱、消費税増税後の国民生活の困窮など、子どもたちをとりまわっている状況は厳しいものがあります。

第14年度7月予定の第14年度通常総会は、台風により急遽9月に開催を延期し開催しました。

今年度は、前年度からの大きな不足金を抱えていたこともあり、財政状況を重視し、早期に不足金を解消できるようとりくんできました。また、理事会としても構成人員を減らし、経費節減をはかり、諸活動を推進するために、専門部を二つに再編し、子ども劇場例会部と企画開発部としてきました。

それぞれの部を理事が分担し活動にあたりました。全体理事会を9月、12月、2月、5月の4回開催しました。理事会前には可能な限り代表理事の打ち合わせを開催し、理事会の議事や運営について課題整理をすすめました。ただ、この一年は、代表理事の団結や理事の意思統一について課題が明らかになった反省すべき1年でした。

主な理事会の検討事項は、9月は理事会運営と諸活動についての計画を確認し、12月は例会災害の今後の対応、フェスティバルの今後の展開、半期の決算と補正予算、次年度に向けて事務局長体制や事務所移転、2月はフェスティバルの実施と次年度の事務局体制、予算の考え方、5月は理事会の運営や専門部との関係、理事の役割分担のあり方、会議の進め方などについて深めてきました。

この1年の会員数は、新入会正会員個人1名・正会員団体1、賛助個人1名、退会は賛助会員個人3人、死亡1名となり、結果、正会員147（120団体、個人27）、賛助会員41（団体13、個人28）、差し引き1減となりました。財政的には昨年までの大きな繰越不足金を抱えてのスタートでしたが、昨年の教訓から、理事会として半期で補正予算を組み、事業や経費の見直しをすすめることで、年間では大きな不足金の解消をすすめ、財政の改善につながりました。次年度に向けては、さらに財政の健全化をめざし、活動資金に困らないよう運用基金の積み立てをめざしましょう。

子ども劇場の例会活動については、子ども劇場例会部が担当し、「空の村号」のとりくみ、「巡回公演」のとりくみをはじめとして、諸課題を解決するためにがんばってきました。今後の活動内容についても展望を開くための計画が出されています。また、台風災害が重なり、大きな被害が出ましたが、例会災害基金積み立てにより、移動運搬費用の災害支援を行うことができました。今後も自然災害が増加する可能性もあり、災害支援のあり方は今後も急いで検討すべき課題となっています。

2007年度から2009年度3年間の支援で終了した文化庁「舞台芸術の魅力発見事業」後、離島小人口地域の旅費運搬費に対する国の支援事業として芸術文化振興基金事務局に相談し、申請3年目の2012年度から4年間連続累計680万円の助成を受けた「九州沖縄離島を含む小人口地域を含む巡回公演」は、実施劇場にとって大きなプール費負担軽減となってきました。昨年芸術文化振興基金新年度助成説明会に代表理事が出向き、助成申請等についてアドバイスを受け、助成要望書を提出しましたが、大幅な減額予算の中、残念ながら今回不採択となってしまいました。今後の申請のあり方について検討することが求められています。

企画開発部が担当し地元実行委員会とともにとりくんだ「朝倉市国際子ども芸術フェスティバル」は第 14 回目を無事に成功させました。その中で、朝倉市のフェスティバル助成要綱が年度途中に施行され、助成金の申請方法や助成金額の算定方式が大きく変わるなど活動が混乱しました。しかし、今年度 389 万円の助成となり大きな支援となりました。朝倉市の助成金の使途や今後のフェスティバル事業の進め方について朝倉市内の巡回公演に助成活動の重点を移すよう、上演団体の負担を軽減するよう上演料を支払う方向など、事業のあり方を見直す良い機会となりました。「九州沖縄子どもと舞台芸術出合いの広場」では、芸術文化振興基金の助成金は、2000 年度九州沖縄フェス、2001 年度杷木国際フェスについて、2008 年度から連続 8 年間続いてきましたが、2014 年度 650 万円、2015 年度 6,522 千円とわずかですが助成額は増額となり、累計 10 回 6652 万円の助成金額となりフェスティバル事業の大きな財政的支えとなっています。

今年は、朝倉市フェスでは、のべ 14 回でついに 10 万名の参加となり大きな節目の年となりました。

今後は、上演団体に上演経費を少しでも保障し、長続きできる事業として育てて行きたいと思います。また、朝倉フェスの長年の成果や、これまで朝倉フェスとつないだ熊本、大分での連続フェスの成功の経験を受け継いで、新たに九州各地へ広がりをめざして、次年度は朝倉市に続き、熊本県合志市での開催をめざし、新しい展開をしていきます。朝倉市では、次年度フェスティバルについての助成金は継続、福岡県民文化祭の助成も決定しています。また、合志市は、「九州沖縄子どもと舞台芸術出合いの広場 国際子どもフェスティバル事業」を「合志市まちづくり事業」と認定、市からの応援を受けています。これまでの朝倉市でのフェスティバルの成果を発展させ、フェスティバル事業を朝倉市に加え、合志市で開催し、ともに成功させましょう。

昨年度夏スタートした「子どもと文化全国フォーラム」は、副代表と常任委員として九州沖縄から参加することになり、今後この窓口は九州沖縄連絡会が分担していくことを確認しました。この 7 月に総会が開催され、これからの新たな活動が期待されます。また、子ども劇場企画実行委員会は、こどもあーとから実行委員会代表と委員メンバーとして 2 名が参加することになりました。全国的な子ども劇場の企画・調整・実施が大きく変化する中で、引き続き連携を強めていくことが求められます。

今後は、子どもの状況、社会の状況をもっと丁寧に話し、こどもあーとの理念や役割を明確にし、代表理事はその活動の先頭にたち、各事業を遂行するために理事会は団結し、一人ひとりの理事の責任や役割を明確にし、各専門理事で実務を分担しながら活動にあたります。また、子ども劇場の全体の活動内容を正しく把握し、九州沖縄の子どもの舞台芸術全体を発展させるために、各県、各地域の活動実態を踏まえた解決策を探り、鑑賞活動および子ども劇場の例会活動を含め、例会の企画、実施、実務機能など全体を整理していきましょう。

さらに、子ども劇場や芸術団体会員の発展のために、九州沖縄地方連絡会とこどもあーとの話し合いと連携をすすめて、相互の信頼関係を高めて、引き続き、組織の役割の在り方や子ども劇場例会活動を進めていくためのあり方について課題の解決をめざしましょう。

事務局体制については、これまで事務局長の柳田理事が事務局を定年退職し、今後は代表理事として非常勤で活動を支えることとなります。新事務局長には、昨年総会で確認した企画開発部長入本理事が非常勤として就任することになりました。今後の新しい事務局活動を円滑にすすめるため、事務所をこれまでの福岡県朝倉市から熊本県合志市に移転し、常勤事務局次長 1 名（菊地市在住）、非常勤事務局長 1 名（鹿児島市在住）の体制とします。新しく始まる事務局体制を支えていきましょう。

また、フェスティバル事業等で、必要な事務局アルバイトや非専従体制を補充するために実行委員会会計で必要な財源を確保していく予定です。

A、子ども劇場例会部まとめとこれから

代表理事・部長 河本景介

2014年度 子ども劇場例会部・県担当者会議 まとめとこれから（案）

- <構成> 子ども劇場例会部(理事) 河本(部長)、藤(副部長)、篠原(事務局次長)
県担当者会議 福岡：井上、大杉、河本／長崎：山口／佐賀：柿本／大分：村上
／熊本：池田／宮崎：中島／鹿児島：柿木、藤、入本／事務局：篠原
- <会議> 県担当者会議など開催日程
- 2014年6月19日～20日 第1回県担当者会議 21日～22日 2014年度例会企画のための交流会
- 6月22日 劇団仲間、九州沖縄連絡会、県担当者会議
- 9月12日 第2回県担当者会議
- 10月30日～31日 九州沖縄調整会議、第3回県担当者会議
- 11月15日 第1回合同会議（九州沖縄連絡会＋県担当者会議）
- 12月 8日 第2回合同会議（九州沖縄連絡会＋県担当者会議）
- 12月 9日 第4回県担当者会議
- 2015年1月30日 「空の村号」歓迎会（九州沖縄連絡会、県担当者会議）
- 3月 3日 第5回県担当者会議 4日 2014年度例会企画打ち合わせ会
- 4月27日 第3回合同会議 夜「空の村号」お疲れさま会
- 4月28日～29日 第6回県担当者会議

(1) まとめとこれから

○ 劇団仲間「空の村号」の取り組み

目的 子どもを取り巻く状況を打ち破るための例会活動について考えあいつくりあっていきます。 子どもの権利条約の実現をめざします。
目標 九州沖縄8県で共同して取り組みましょう。 劇団仲間と共につくりあいましょう。

<目的と目標、取り組みの経過>

このことを目的と目標として昨年2014年3月の例会企画打合せ会で確認し、取り組みを進めてきました。

この舞台作品を通して、原発事故がなにげない日常の暮らしに何をもちたらしめたのか、このことを共感し、私たちは何をすべきか子どもたちと共に考え合い、よりよい社会を創るために仲間を広げていきたいと考え、この作品を提案しました。

「空の村号」のリーディングを観た後に、子どもたちがより共感できるように、参加対象年齢を広げられるように、劇団仲間に舞台劇にすることをお願いしました。

この作品を取り組むにあたり脚本家の篠原久美子さんの講演会『世界をかえる物語』を九州沖縄連絡会の組織運営交流会で行うことにしました。篠原さんは「パラダイムチェンジ～小さな力でも正しく突き続ければ大きな壁が動く。」と話され、この言葉はその後の取り組みの大きな力になりました。

子ども劇場例会部・県担当者会議と九州沖縄連絡会県代表者会議で8県で共同し取り組むことを提案し、合同会議を重ね丁寧に取り組みをすすめました。結果、1/28～4/27までの3ヶ月のコースで66STを決定することができました。

そして、共に創りあうために、各子ども劇場で取り組みに責任をもつメンバーで、2014年4月16日～17日で「空の村号」九州公演を福岡と鹿児島で行い、490名が参加し劇団と作品についての意見交換を行うことができました。このことは、その後の作品づくりと各子ども劇場の取り組みに活かされました。

<各県の取り組みの様子>

各県の取り組みでも様々な成果が生まれています。沖縄県では、子どもたちとリーディングなどを取り組み、初日をあげました。大分県ではおおいと別府が合同例会として取り組みましたが、なかつは貸し切りバスで参加し、県内の合同の取り組みの可能性がひろがりました。佐賀県では県内3劇場で同じ作品に取り組むのは初めてのことで、事前の取り組みなども活発に行われました。長崎県ではこの取り組みを通して「例会活動」を

実感ははじめました。また、ながさきの青年たちがリーディングに取り組み主体的な活動になりました。また、宮崎県でも厳しい状況の中で県内3劇場で取り組むことができ、延岡は会員数は約70名ですが、地域の人たちと共に取り組み200名を超える参加がありました。福岡県では、すべての19子ども劇場が例会として取り組み、泰造おじさんのモデルの長谷川健一さんの講演会に県内の5つの地域が取り組みました。その中で、3つの地域で中学生・高校生が実行委員会をつくり取り組みました。熊本県では岸和田演劇祭に「空の村号」を観に行き取り組みの力にし、熊本市連絡会とやつしろで子どもたちの実行委員会ができ事前の取り組みをつくることができました。鹿児島県では県全体でプロジェクトをつくり「ふるさとづくり」に取り組み、原発のある川内での公演を実現し、社会に子ども劇場を広げ発信できました。また、取り組みを通じて、社会への関心など閉じていた心のふたが開いたとの声も多く聞かれました。

<66ステージへの拡がりとその意味>

それぞれの県で様々な論議がすすめられステージ数が増えていきました。長崎県では、当初は思いが十分に共有できず企画が進みませんでした。九州沖縄調整会議での論議の中で、改めて取り組みの意味を感じ諫早が最後に追加になりました。このような一つ一つの積み重ねが66STを生み出しました。

そして、「舞台の力を信じ舞台劇化し対象年齢を広げた。」「九州沖縄連絡会と共に取り組み、合同会議で考えあい各県丁寧に各子ども劇場へ呼びかけた。」「福島原発事故にむけ自分たちのやれることが見えた。」などが、各子ども劇場での「何かしたい」との思いを引き出し、地域も巻き込み予想を超える66ステージにつながりました。

また、劇団との事前では松野さんの事前を12月と3月に、飛田さんの事前を3月に実施しました。この作品を創った劇団の想いや飯館村をみなで訪ねた話しを聴くことができ、取り組みへの力になりました。

公演は、1/28～4/27の3ヶ月という長期間になりました。病気やケガなく最後まで公演できるか、大きな緊張の中でスタートしました。公演班は、ホールや平土間など毎回異なる会場条件の中で、その会場に適した舞台づくりに取り組みました。各公演で俳優と観客が共に創りあう公演になり、舞台が成長し続けていることが感じられ、3ヶ月の公演を通して、劇団仲間と子ども劇場が共に創りあった舞台になりました。多くの人が舞台に共感し、自分に引き寄せて観ることができました。

66ステージの公演を終え、テレビなどで情報として知っていたことだが、みんなでお芝居を観て共感し、「舞台芸術の力を感じた。」「自分に何ができるか」を考えたいとの思いにつながりました。8県で共同し、劇団仲間と共に創りあい、子どもをとりまく状況を打ち破る例会活動を考えあった大きな成果でした。また、全国の子ども劇場で観てほしいとの思いを新たにしました。各子ども劇場でも「舞台芸術の力で子どもをとりまく状況を打ち破る」ことにむけ変化が生まれました。また、新たな共同の活動である「九州沖縄 わ・和・輪 企画」にもつながりました。

○九州沖縄 わ・和・輪 企画～舞台芸術の力で子どもをとりまく状況を打ち破る～

九州沖縄連絡会の組織運営交流会と企画打合せ会、企画のための交流会の内容が重なり相乗的に取り組まれるようになってきました。「空の村号」の取り組みは大きな一歩でした。九州沖縄でのこれまでの共同の活動を踏まえ、九州沖縄連絡会と県担当者会議で合同会議を行い、これからの取り組みを検討しました。今の例会の現状や各県で実現したいことを出し合い、「共同」は各県で様々な使われている用語なので新たな言葉を創ろうと考え「九州沖縄 わ・和・輪 企画」としました。

九州沖縄 わ・和・輪 企画の目的として、子どもの権利条約31条、特に文化芸術への参加の権利を保障すること。1つの子ども劇場や県で実現できないことを九州沖縄8県の共同で乗り越えることを確認しあいました。

子どもをとりまく状況から出発し、各子ども劇場・県が主体的に考え決定に参加し、まとめまでを視野にいれ大切に取り組みたいと思います。当面はホール作品と子ども劇場50周年記念特別企画創作歌舞伎に取り組むことにしました。また、従来から行っている企画が困難な子ども劇場のコース作品の提案や200名未満の子ども劇場が挑戦してみようと思える4～6名構成の作品提案などは引き続き取り組んでいきます。

○これから

2010年から子ども劇場例会部・県担当者会議として3月に例会企画のための打合せ会と6月に企画のための交流会を開催し、子ども劇場の例会活動を中心に活動をすすめる「みんなで少し無理して頑張ろう」「やれる企画からやりたい企画へ」と取り組みました。また、創造団体との事前の取り組みについても県担当者会議です

めています。その上で、現在は「舞台芸術の力で子どもをとりまく状況を打ち破る」をテーマとして活動しています。

今年度は、先にも触れたように、九州沖縄連絡会の県代表者会議と共に合同会議を行い「空の村号」の取組をすすめてきました。各県の組織・活動や各子ども劇場の取組みとも重なり66STの公演や取組みを成功させることができました。

一方、県担当者会議の、各子ども劇場の例会活動を発展させるための、例会に関する仕事(実務)や活動について課題もあり、理事会での論議と併せ、必要な範囲で県担当者会議でも論議していきます。

来年度は、方針・課題・ねらい(別紙)に沿った取組みを引き続きすすめていきます。あわせて、九州沖縄わ・和・輪企画の取組みもすすめていきます。また、「舞台芸術の力で子どもをとりまく状況を打ち破る」ことをめざし、3月の例会企画打合せ会は1年間の取組みの成果と課題を共有し、次年度の例会の取組みの打合せの場として、6月の例会企画交流会は、例会企画を創造団体と共に考えあう場として取り組んでいきたいと考えています。

(2) 活動のまとめ

「九州沖縄子ども劇場2015年度例会企画のための交流会」

2014年6月21日(土)10:50~22日(日)11:50 福岡市立博多市民センター

参加：創造団体 68団体 73名 子ども劇場 68団体 173名 テーマ：舞台芸術の力で子どもをとりまく状況を打ち破る 基調報告：「九州沖縄の例会活動の現状とこれから」子ども劇場例会部長：河本 景介 基調講演：「子ども観転換の時代を生きる一子どもとかかわる大人の喜びと責任」 大宮勇雄さん(福島大学 教授)

全体会で大宮先生から「子ども観転換の時代を生きる一子どもとかかわる大人の喜びと責任」を聞き、創造団体と子ども劇場の参加者で、子どもの状況を共有することができました。

ジャンル別交流会では舞台芸術の力で子どもをとりまく状況を打ち破るために子ども劇場と創造団体で何ができるかを交流しました。

団体紹介・作品紹介では団体の理念や作品を提出した想いをきくことができ、創造団体からの話しの後に、子ども劇場同士で質問したいことなど話し合う時間をとり質問や意見が活発に出されることにつながりました。

「子ども劇場2015年度例会企画打合せ会」

2015年3月4日(水)10:45~17:20 福岡市立博多市民センター

参加：創造団体 16団体 19名 子ども劇場 67団体 152名 はじめに：「九州沖縄での例会活動と今回の趣旨」子ども劇場例会部 河本 景介 報告：劇団仲間：松野方子さん村井裕さん 『「空の村号」との出会いから見えてきたもの感じたこと』 北九州・行橋・いづか地域：稗田健吾さん(いづか/高校生・実行委員長) 『長谷川健一さんのお話を聞く会にむけて』 鹿児島紫原子ども劇場：藤岡 紗絵さん(運営委員長) 『「私がふたを開けたとき・・・」～劇場活動の軸ができた』 川内子ども劇場屋久節子さん(事務局長) 『“絶対無理”からやることになった経緯』 おおいた子ども劇場：仲道美衣さん(理事長) 『おおいた子ども劇場の取組み』

全体会での報告は、各子ども劇場の取組みの様子などがわかり好評でした。特に、高校生の報告は自分達で決め丁寧に創りあった様子と取組みを通して日常が変化することが感じられました。基調報告で、空の村号66STの意味や取組みの様子にもう少し触れた方が具体的になって良かったとの意見がありました。

また、各作品毎の打合せでは、団体や作品のことがよくわかり、例会を共に創りあっていることが感じあえ

ました。

企画していない作品の打合せへの参加がいくつかありましたが、今後は、打合せへの参加は、企画・実施する作品のみにしていきたいと考えています。

人形劇団プークの「てぶくろ」と「てぶくろを買いに」では、「行動事前」の提案を行いました。この取り組みの具体化に向けては、夏に再度プークと打合せの機会をと考えています。

参加する子ども劇場が多い打合せはもう少し時間があつた方が良かったとの意見もありました。創造団体の話しの後、近くの人たちで話し合つて質問・意見を出してもらつたなど工夫したとの意見もありました。次回にむけ検討していきたいと思つています。

(3) 例会の企画・調整・実施

□ 2014年度例会企画の実施（2014年6月～2015年5月）

○ 実施ステージ数 企画参加 69子ども劇場 28団体 43作品 244日 285STを実施。

2013年11月の調整決定時点から30ST追加

○ 特徴

・劇団仲間「空の村号」の実現によりST数が26ST増えた。

・人形劇団ひとみ座「ふたりはともだち」、劇団なんじゃもんじゃ「ベッカンコおに」を提案した。

○ 九州沖縄地方の離島・少人口地域を含む巡回公演（平成26年度分）

芸術文化振興基金の助成を受け41日46STを実施しました。助成金250万円によりプール費を大幅に軽減することができました。

人形劇団プーク「もりのへなそうる」17日20ST

人形劇団ひとみ座「ふたりはともだち」13日15ST

劇団なんじゃもんじゃ「たまごとおじさん」8日8ST

劇団なんじゃもんじゃ「ベッカンコおに」3日3ST

□ 2015年度例会の企画・調整（2015年6月～2016年5月）

○ 企画ステージ数 42団体54作品 179日199ST 企画参加65子ども劇場

○ 企画作品の提案と調整の状況

・人形劇団プークの「てぶくろを買いに／併演：くるみ割り人形」と

「てぶくろ／併演：いっぽんばしわたる」の2作品を提案した。

てぶくろを買いに 16窓口39子ども劇場18日23ST

てぶくろ 17窓口17子ども劇場17日17ST

・高学年部ホール作品として「新・動物農場」を提案した。福岡と佐賀が企画。4日5ST。

・ステージ数の減 会員数の減により 更に厳しい状況 2013企画に比べ60ST減少。

□ 九州沖縄地方の離島小人口地域を含む巡回公演（平成27年度分）

○ 人形劇団プーク「てぶくろを買いに／併演：くるみ割り人形」「てぶくろ／併演：いっぽ

んばしわたる」、人形劇団ひとみ座「ふたりはともだち」、青い卵「いつもとなりに」の60公演

を、芸術文化振興基金へ助成金申請しましたが不採択となりました。原因など今後にむけ検討していきます。

B、企画開発部のまとめとこれから

代表理事・部長 入本 敏也

●2014年度 企画開発部まとめ

これまで企画開発部は「九州沖縄各地への子どもの舞台芸術活動の普及」について推進していくための部門として活動してきましたが、今年度よりこどもあーと設立時にイメージしていた「九州沖縄の子ども劇場として培ってきた経験、ソフトを広く九州沖縄の様々な子どもたちに広げていく」ことをより推進していくために、子ども国際部と合流し、新たなスタートを切りました。

◇第14回朝倉市国際子ども芸術フェスティバル

「九州沖縄子どもと舞台芸術出合いの広場」実行委員会の構成団体として、今年度も朝倉市国際子ども芸術フェスティバルの企画内容および当日運営に責任を持ってきました。

今年度で14回目を迎えた朝倉フェスはこれまで地域住民や海外ボランティアスタッフ、国内の若いボランティアスタッフなど多くの方々の力を合わせることで開催を続けてきました。その経験の積み重ねからフェス当日は非常にスムーズな運営が行われ、14回という歴史を感じられるものとなりました。しかし、ボランティアスタッフの高齢化が進む中、地域の中での人材育成が大きな課題となっており、今後は行政も含めた地域がより主体的に創り合っていくフェスティバルの在り方を至急に検討しなければなりません。

九州沖縄子どもと舞台芸術出合いの広場実行委員会として開催しているこのフェスティバルは本年度も日本芸術文化振興会より助成事業として決定をいただきました。九州全域の子どもたちへの舞台作品提供の意義と実績、そして海外との交流のパイプラインとしての役割が大きく評価されたものです。

また、九州沖縄各地へのフェスティバルの広がりという点では3年前のフェスティバルを契機に、熊本県で会館との共催によるフェスティバル実施が継続されています。

～「夏！子どもわくわくアートフェスティバル 2014」に取り組んで～

熊本県子ども劇場連絡会

2013年度から始まった熊本県立劇場との共同企画「夏！子どもわくわくアートフェスティバル 2014」は2年目の取り組みになりました。夏の7月末の県立劇場の空き状況に合わせて日程が決まるので、2014年度は7月29～30日（火、水）の二日間でした。夏休みではありますが、平日ということもあり、チケットの販売に最初は苦労しましたが、最終的には昨年を上回る延べ2,222人の参加がありました。

上演団体は、演劇3作品5ステージ、人形劇2作品2ステージ、音楽5作品5ステージの12ステージと、アマチュアのグループが3作品、そして子どもたちが大好きな「つくってあそぼう！」のコーナーも大人気でした。上演団体9団体の内、5団体が熊本県内のグループです。同時開催の県立劇場企画の「邦楽ワークショップ・ミニコンサート」への参加も昨年を大きく上回り、共同することでの広がりを感じることができました。

最初からこの事業の毎年の継続を約束したわけではありませんが、2014年度の結果を受けて、2015年度の実施も話し合いの結果決まりました。

さらに熊本県内の子どもたちが楽しみに待つフェスティバルになるよう、2015年度も取り組んでいきたいと思っています。

熊本県子ども劇場連絡会

◇こどもあーとハンドブック

今年度も、九州沖縄の子ども劇場例会企画日程紹介や九州沖縄在住の創造団体紹介、九州沖縄で実施可能なワークショップの紹介をまとめた「こどもあーとハンドブック」を発行しました。これは九州沖縄各地で子ども達と舞台芸術の様々な出合いが広がっていくことを目指しての発行です。

次年度はフェスティバルの当日パンフレットとのこれまで以上の合理化を進め、よりを有効に活用していただける資料を目指します。

◇子ども国際活動

子ども国際的分野としては以下の活動を行ってきました。

- ①韓国アシテジ サマーフェスティバル参加 (別紙)
- ②韓国文化学校 (BEFU) 障害児のためのフェスティバル参加

2014年10月8日～9日にChungmu芸術センターで開催されました。この事業は「The Way to the Theatre」(演劇への道)というタイトルで、12年間開催されているものです。BEFUの事務所があるホールで、多くの若いスタッフが参加し作り上げるこのフェスは、年々大きくなり、多くの支援者が支えているのが実感できました。ホール全館を使ったフェスティバルで、様々なジャンルの芸術(絵画、展示、ワーク、公演など)が繰り広げられていました。

- ③子ども芸術フェスティバル海外作品招聘事業及び紹介事業

朝倉フェス作品招聘として、劇団Y・a「赤ずきんちゃん」「ピノキオ」、劇団ザパリ研究所「遊びワーク」YO-YO Effectを招聘しました。

また、協力事業としては「子ども村」「子どもの体験活動指導者養成講座」に関わってきました。

次年度は以下の活動を進めていきます。

- ①地域文化コーディネーター人材養成事業

今年度の「子ども芸術フェスティバル」(合志市で開催)で、韓国指導者による教育演劇ワークの実現を目指したい。

- ②国際文化交流 韓国アシテジサマーフェスティバル、韓国 BEFU 障害者フェスティバル

国際ワークキャンプ開催支援、子ども芸術フェスティバル海外作品招聘事業及び紹介事業

- ③子どもの権利条約を推進する事業 「子ども芸術フェスティバル」を中心に、子どもたちの文化芸術への参加を推進し、子どもたち自身が発信する文化創造を広げていきたい。

- ④(協力) 子ども村:長期自然体験(子ども村プロジェクト 子どもゆめ基金助成事業)

(協力) 子どもの体験活動指導者養成講座(子ども村プロジェクト 子どもゆめ基金助成事業)

◇子ども劇場企画実行委員会の動き

2003年より子ども劇場例会企画の円滑な実施を目指して活動を続けている子ども劇場 企画実行委員会は今年度も企画受け付け、調整、全国的な課題整理などの活動を行ってきました。

前年度企画から内容の整理・合理化を進めた企画調整会議は今年度開催分もスムーズに実施され、今後もこの方向性で継続していくことが確認されています。

企画パンフレットについてこれまで様々な議論を重ねてきましたが、2016企画からこれまで創造団体実行委員会発行であったパンフレットを子ども劇場各地方窓口が主体となり発行するものに変更することとなりました。それにともない創造団体実行委員会では企画作品データのwebサイトを立ち上げ、新たな拡がりへの動きがスタートしました。この分野の活動はこれまで担当責任者の全国的な役割の関係で企画開発部が担ってきましたが、次年度以降は子ども劇場例会部との連携活動として継続していきます。

◇九州各地への舞台公演の拡がりについての課題

企画開発部としてはこれまで九州各地での様々な要望に対して「地域をつなぐプログラムを提起する」役割を担ってきました。この分野に係る活動はこどもあーと設立時からの課題であり、九州全体の子どものための舞台環境充実を図ろうと各県を主体にしながら様々な役割の中で活動してきましたが、各県の中では様々な具体的実践が行われており、各県の活動を超えてこどもあーと全体として一定の恒常的な成果を挙げることがなかなか難しい現状にあります。こどもあーとが様々な会員を抱えながらも実質的な活動・運営は子ども劇場の各県組織を通じた形で進む状況の中、企画開発部がどのような在り方であるべきなのかは依然として難しい課題です。しかし、こどもあーと設立目的の一つである「九州沖縄各地へ子どもと舞台芸術の出会いを広げる」という視点に立ったときに、企画開発部が重要な役割を担っていることははっきりしています。次年度は子ども劇場例会以外の公演データの分析など、まずは積み残している課題に手をつけるところから進め、今後もその役割をしっかりと認識しながらこれまでの活動を継続し、今後の活動を検討していきます。

2、第14年度活動計算書（収支決算）案報告

第14年度こどもあーと収支決算報告書について（案）

3、監査報告書と指摘事項

第2号議案 第15年度活動計画案と第15年度活動予算書案（理事会議決・報告事項）

4、第15年度活動計画案（第14年度事業を引き継ぎます）

（子ども劇場例会部と県担当者会議）企画調整実施事業

子ども劇場企画実行委員会（企画作品、実務資料の作成・配布、全国的な調整）
例会企画調整実施、企画交流会、企画打合せ会開催、2017年度企画作品パンフ発行
例会実施に関する日程管理、経費計算、交通運搬手配
事前事後の交流会、座談会、学習会等の開催、2017年度離島少人口地域を含む巡回公演助成申請
例会災害基金の規定の整備

（企画開発部）企画開発事業

子ども劇場企画実行委員会（企画作品、実務資料の作成・配布、全国的な調整）
こどもあーとハンドブック発行
朝倉市国際子ども芸術フェスティバル（朝倉市助成、芸術文化振興基金助成）
九州沖縄子どもと舞台芸術出合いの広場（合志市支援、芸術文化振興基金助成）
子どもの舞台芸術作品の創造と普及、制作（小規模作品）
国際文化交流 日韓交流（BEFU、障がい者フェス、韓国アシテジフェスとの交流）
子ども芸術フェスティバルへの海外作品の招聘、及び紹介
地域文化コーディネーター人材養成事業 韓国指導者による教育演劇ワーク
国際ワークキャンプ開催支援
（協力）子ども村:長期自然体験（子ども村プロジェクト 子どもゆめ基金助成事業）
（協力）子どもの体験活動指導者養成講座（子ども村プロジェクト 子どもゆめ基金助成事業）

（理事会全体）

連絡会と連携のための話し合い	活動内容について整理と話し合い
子どもの権利条約を推進する事業	子どもの文化権を社会化するキャンペーン
文化政策に関する調査、研究	消費税増税の動きに対する文化活動非課税のとりくみ
広報、ネットワーク事業	こどもあーとハンドブック発行

5、第15年度活動予算書案

第3号議案 定款の変更案

6、事務所の移転と定款変更

第15年度は、新たな非専従事務局長とともに継続的な事務局活動をすすめるために、熊本県に事務所を移転します。そのために、定款第2条の事務所所在地を変更します。

第2条

（変更前）この法人は、主たる事務所を福岡県朝倉市杷木久喜宮2787番地2におきます。

（変更後）この法人は、主たる事務所を熊本県合志市御代志2086番地74_____におきます。

第4号議案 役員選任

7、第15年度役員紹介

役職	氏名	担当	所属
理事	柳田 茂樹	代表理事（フェス） 企画開発部	(特)九州沖縄子ども文化芸術協会
	中田 尚子	代表理事（国際） 企画開発部副部長	(特)九州沖縄子ども文化芸術協会
	入本 敏也	代表理事・事務局長 企画開発部長	(特)かごしま子ども芸術センター
	河本 景介	代表理事 子ども劇場例会部長	(特)子ども劇場福岡県センター
	富士川 佳余子	企画開発部	(特)熊本県子ども劇場連絡会
	後藤 強	企画開発部	大分県子ども劇場連絡会
	藤 英子	子ども劇場例会部	鹿児島県子ども劇場協議会
監事	篠原 恵里子	子ども劇場例会部 事務局次長	(特)九州沖縄子ども文化芸術協会
	荒尾 寿味雄	第一経営共同経理事務所	
	瓜生田 はるみ	大分県子ども劇場連絡会	

専門部理事

企画開発部 部会	中田 尚子	副部長	(特)九州沖縄子ども文化芸術協会
	入本 敏也	部長・事務局長	(特)かごしま子ども芸術センター
	富士川 佳余子		(特)熊本県子ども劇場連絡会
	後藤 強		大分県子ども劇場連絡会
	柳田 茂樹		(特)九州沖縄子ども文化芸術協会
子ども劇場例会 部会	河本 景介	部長	(特)子ども劇場福岡県センター
	藤 英子		鹿児島県子ども劇場協議会
	篠原 恵里子	事務局次長	(特)九州沖縄子ども文化芸術協会

子ども劇場例会部 県担当者会議

担当理事	河本景介	代表理事・部長	(特)九州沖縄子ども文化芸術協会
	藤 英子	理事・副部長	
	篠原 恵里子	理事・事務局	
県担当者	井上 美奈子	福岡県	(特)子ども劇場福岡県センター
	大杉 高子		
	山口 泰代	長崎県	(特)長崎県子ども劇場連絡会
	柿本 由美子	佐賀県	佐賀県子ども劇場連絡会
	池田 まり	熊本県	(特)熊本県子ども劇場連絡会
	村上 規子	大分県	大分県子ども劇場連絡会
	中島 千津子	宮崎県	宮崎県子ども劇場おやこ劇場連絡会
柿木 とも子	鹿児島県	鹿児島県子ども劇場協議会	